

「矢祭子ども司書講座」を受ける君たちへ

ノンフィクション作家 柳田 邦男

矢祭町が全国に先がけて、子どもたちにより深く本に親しめるようにするための「子ども司書」講座を始めて、はや十五年になるのですね。

そして、今年第十五期からは、二年生から六年生までの全員が受講するのだと聞いて、私は驚きました。それは全国でもはじめてのことだからです。しかも全員が子ども司書の学びをすることは、将来この町で暮らし、この町を支える人たちの心が豊かになることにつながるのです。

子ども司書の講座では、毎日の学科の授業とはちょっと違うことを学ぶでしょう。図書館には、実に多くのいろいろな分野の本があることや、図書館利用者が選ぶ本の種類も人によって違うこと、ベストセラーと言われる本の作者以外にもたくさん作家がいて、知らない作家でも読みたくなるような本を書いていること、自分は理科がにが手だと思っても並んでいるたくさんの本をぱらぱらとめくっているうちに、昆虫学とか天文学とかに興味を引かれるようになったりすること、みりよく的な写真集や画集がとても多いことなど、もし図書館についての講座を受けなかったら知らないで卒業してしまうようなさまざまな気づきを経験するでしょう。

このようにたくさんの気づきを経験すると、いろいろなことに関心をもつようになります。そういうことを、「視野が広がる」と言います。視野が広がると、学校での授業の内容を理解する力も向上します。

このように子ども司書講座は、とてもよい経験になるのに、これまでは少人数の希望者だけが受講していました。もったいないと思っていました。でも、今年からは二年生以上の全員が学年ごとに受講を積み重ねていき、卒業時に「子ども司書」の認定証を受けるという取り組みになりました。

そして、認定証を受けた卒業生の名前は、矢祭もったいない図書館に掲示されるのです。

それは十年後、二十年後の矢祭町の若者たちは、全員が子ども司書の学びをした人たちになるということです。素晴らしいことです。

さあ、これから始まる子ども司書講座をしっかりと楽しんでください。

令和五年四月十一日

